

日本教育経営学会

第 64 回大会プログラム

会場 九州大学（伊都キャンパス、西新プラザ）

西新プラザ（6 月 7 日、〒814-0002 福岡市早良区西新 2-16-23）

伊都キャンパス（6 月 8・9 日、〒819-0395 福岡市西区元岡 744）

期間 2024 年 6 月 7 日（金）～ 9 日（日）



写真提供：九州大学広報課

日本教育経営学会 第 64 回大会準備委員会

主催：日本教育経営学会

後援：九州教育経営学会、福岡県教育委員会、福岡市教育委員会、
北九州市教育委員会、福岡県市町村教育委員会連絡協議会

ごあいさつ

日本教育経営学会第 64 回大会準備委員会
委員長 元兼正浩（九州大学）

日本教育経営学会第 64 回大会は九州地区にて四半世紀ぶりに開催させて頂くこととなりました。2024 年 6 月 7 日（金）は九州大学西新プラザで、8 日（土）と 9 日（日）は日本最大級の広さを誇る伊都キャンパス（福岡市西区）にて完全対面形式にて多くの皆様のご来場をお待ちしています。

今回のプログラムとして、自由研究発表（2・3 日目）に加え、若手研究者のための研究フォーラム（初日・西新プラザ）、課題研究（3 日目）、実践研究フォーラム（3 日目）、研究倫理に関するラウンドテーブル（3 日目）を予定しています。また、公開シンポジウム（2 日目）のテーマは、「教師を取り巻く労働環境を考える」です。西日本新聞社・四宮淳平編集委員「手足を縛られた教員たち」、愛媛大学・露口健司教授「教員のウェルビーイングを高める働き方改革」、早稲田大学・油布佐和子名誉教授「過重労働の背景を探る」と題して、開催地・福岡に縁のあるお三方にご登壇いただき、それぞれの立場から忌憚なくご報告いただきます。また、木岡一明会長には指定討論の労をお取りいただきます。この間、中央教育審議会を始めとする行政の審議機関、関係学会で同様の議論が行われながらも、なかなか解きほぐせない難題ですが、教師の労働環境を教育経営学の課題として改めて捉え直し、何かしらの展望を共有できたらと考えております。

九州大学伊都キャンパスには、最寄りの九大学研都市駅からバス等での移動をお願いする不便をおかけすることになりますが、福岡空港や博多駅・天神駅から九大学研都市駅までのアクセスは一本で便利です。託児経費一部補助も導入され多くの会員がご参加いただけるよう準備を進めています。

玄界灘に面し、大陸や朝鮮半島との交流の玄関口だった伊都キャンパスのある糸島地区には、「魏志倭人伝」に描かれた伊都国があったとされるなど歴史が刻まれています。大会が行われる人文社会系学部・研究院の棟が並ぶイーストゾーンは古墳を切り崩して立地されました。また、西南学院大学や旧・箱崎キャンパスなど博多湾の沿岸には元寇防塁も各所に残っています。今年は文永の役(1274 年)から 750 年という節目にあたり、悠久の歴史にも触れていただければと思います。

そうした歴史的な時間感覚からすれば僅かなスパンかもしれませんが、前回の九州地区での大会が九州大学箱崎キャンパスでの第 36 回大会（1996 年）と 28 年も経ちましたのでノウハウどころか、スタッフに記憶も記録もない中で、大会運営には行き届かない点多々あるかと思います。ただ、今回、九州地区での久方ぶりの大会を盛り上げたいと、九州地区や九州にゆかりのある会員が多く集まり、大会準備委員会（後掲）を組織することができました。

大会開催期間、大会準備委員会一同、精一杯運営に努め、快適に議論できる場、楽しく語り合える懇談の場を提供させて頂きたいと願っております。シンポジウム、分科会、ラウンドテーブルはもとより、総会、そして懇親会にも皆さまの積極的なご参加とご支援を心よりお願い申し上げます。

第 64 回大会プログラム目次

大会日程および会場	3
大会参加について（ご案内）	4
託児補助の手続きについて	7
自由研究発表要領	8
交通案内	9
キャンパスマップ	12
会場フロアマップ	13
第 1 日 6 月 7 日（金）	
若手研究者のための研究フォーラム	14
第 2 日 6 月 8 日（土）	
自由研究発表 1	15
自由研究発表 2	16
自由研究発表 3	17
自由研究発表 4	18
自由研究発表 5	19
公開シンポジウム	20
総会、懇親会	22
第 3 日 6 月 9 日（日）	
自由研究発表 6	23
自由研究発表 7	24
自由研究発表 8	25
自由研究発表 9	26
ラウンドテーブル	27
課題研究	28
実践研究フォーラム	29

大会日程および会場

6月7日 (金)

九州大学西新プラザ

16:30～	大会受付	西新プラザ2階 中会議室
17:00～19:00	若手研究者のための研究フォーラム	西新プラザ2階 中会議室

6月8日 (土)

九州大学伊都キャンパス

8:30～	大会受付	イースト1号館1階
9:30～12:05	自由研究発表1	イースト1号館1階 E-A-117 教室
	自由研究発表2	イースト1号館1階 E-A-105 教室
	自由研究発表3	イースト1号館1階 E-B-102 教室
	自由研究発表4	イースト1号館1階 E-B-101 教室
	自由研究発表5	イースト1号館1階 E-A-118 教室
12:05～13:00	昼食	
13:00～16:00	公開シンポジウム	イーストゾーン 大講義室 I
16:15～17:15	総会	イーストゾーン 大講義室 I
17:35～19:35	懇親会	ビッグスカイ (食堂)

6月9日 (日)

九州大学伊都キャンパス

8:30～	大会受付	イースト1号館1階
9:30～12:05	自由研究発表6	イースト1号館1階 E-A-117 教室
	自由研究発表7	イースト1号館1階 E-B-101 教室
	自由研究発表8	イースト1号館1階 E-A-118 教室
	自由研究発表9	イースト1号館1階 E-B-102 教室
12:05～13:15	昼食	
12:10～13:10	ラウンドテーブル	イースト1号館1階 E-B-102 教室
13:15～16:15	課題研究	イースト1号館1階 E-B-101 教室
13:15～16:15	実践研究フォーラム	イースト1号館1階 E-A-118 教室

会員控室	イースト1号館1階 E-B-105 演習室
学会事務局控室	イースト1号館1階 E-B-104 演習室
大会準備委員会本部	イースト1号館1階 E-B-103 演習室
公開シンポジウム打ち合わせ	イースト1号館4階 教育学調査・資料室
実践研究フォーラム打ち合わせ	イースト1号館1階 E-B-106 演習室

大会参加について（ご案内）

1. 参加申込の手順

（1）大会参加申込

大会に参加される方は、下記の参加登録システムより 6月3日（月）までにお申し込みください。
円滑な大会運営のため5月末までの登録にご協力ください。参加費（懇親会費、お弁当代を含む）は
申込時にお支払いいただく形となります。なお、お支払い方法は原則クレジットカード決済となります
ので、ご了承ください。

◆参加登録システム：https://convention.kijima-p.co.jp/participation_sys/jasea2024/

◆QRコードはこちら：



※参加登録用フォームにおける注意事項（必ずお読みください）

- ・参加登録完了後の内容変更や追加でのお申し込み（懇親会、お弁当を含む）、また変更に伴う返金などはいたしかねますので、ご了承ください。
- ・参加者情報の入力に引き続いて、クレジットカード決済画面が表示されますので、あらかじめお手元にカードをご用意いただくことをお勧めします。
- ・早期のお申込（4月26日（金）までのシステム入力）に限り、銀行振込による会費決済を承ります。振込手数料は参加者負担です。振込依頼人名には、システムにて表示される受付番号と参加者名を記入してください（例：0123 ガツカイ タロウ）。登録から3日以内に振込が確認できない場合や、4月30日（火）の銀行営業時間までに着金を確認できない場合、申し込みを取り消す場合がありますので、お早めの送金に協力ください。
- ・受付通知など、参加登録システムからのメールは、jasea2024@www16.b-2.jp を送信元としています。本アドレスは送信専用ですので、お問い合わせなどは大会準備委員会事務局（jasea2024@gmail.com）へお願いします。
- ・九州教育経営学会の会員（日本教育経営学会の正会員を除く）は、「臨時会員のうち九州教育経営学会会員」を選択してください。
- ・常勤の職を有しない学生（院生・科目等履修生・聴講生・学部生）は、「学生会員（正会員／臨時会員）」を選択してください。

なお、正会員の方で、総会ご欠席の方は、以下の委任状提出用のフォームにアクセスして事前に「委任状」をご提出ください（総会のオンライン配信はいたしませんのでご了承ください）。

◆総会委任状フォーム：<https://forms.gle/yPj8Q7g5qNs6Zrq56>

◆QRコードはこちら：



(2) 参加費・懇親会費について

大会の参加費、懇親会費は以下の通りです。

大会参加費	一般（正会員／臨時会員）	4,000 円
	臨時会員のうち九州教育経営学会会員	2,000 円
	学生会員（正会員／臨時会員）	1,000 円
	シンポジウムのみ参加者（学生除く）	500 円
	シンポジウムのみ参加の学生	無料
懇親会費	一般（正会員／臨時会員）	4,000 円
	学生会員（正会員／臨時会員）	2,000 円

2. 受付

- ・6月7日（金）：九州大学西新プラザ2階中会議室前にて大会受付を行います。
- ・6月8日（土）・9日（日）：九州大学伊都キャンパスイースト1号館入口（L-Cafe 前）にて大会受付を行います。

※8日（土）・9日（日）は大会受付付近に学会事務局の窓口も設けますが、紀要の配布、学会費の現金での納入受付は行いません。会員管理システム・シクミネット「マイページ」から事前に納入を
してのご参加をお願いいたします。

3. 懇親会

- ・日時：6月8日（土）17：35～19：35
- ・会場：九州大学 ビッグスカイ（食堂）

※懇親会費は、参加申し込み時に事前にお支払いいただく形となります（「1. 参加申込の手順」をご参照ください）。

4. 昼食

6月8日（土）・9日（日）は、両日ともに事前申し込み制でお弁当を手配いたします（1食1,000円・お茶付き）。ご希望の方は、参加申し込み時に必要事項をご記入ください。お弁当の受け渡し場所については、当日ご案内します。お弁当を注文されなかった方は、各自で昼食のご用意をお願いします。

なお、キャンパス内にある「セブンイレブン九州大学店」「COOP Main Dining」は8日、9日に営業する見込みですが、会場より片道徒歩10～15分程度かかりますのでご注意ください（12頁参照）。

5. 宿泊

ホテルは各自でのご予約をお願いいたします。インバウンドや大規模コンサートの影響を受け宿泊先が少なくなることが予想されますので、お早めの確保をお願いします。福岡市内でホテル数が多い地区は博多地区、天神地区の2地区です。伊都キャンパス付近にはホテルがありません。2024年4月現在、比較的近距離にあるホテルは以下の通りです。

- ・ [グローカルホテル糸島](#) ※交通手段に注意
- ・ [ホテルニューガイア糸島](#)
- ・ [HOTEL AZ 福岡糸島店](#)

6. 駐車場

西新プラザの周辺の道路は大変狭くなっております。西新プラザ駐車場は5台駐車可能ですが、できる限り公共交通をご利用いただきますようお願いいたします。

伊都キャンパスに車でお越しの方はイーストゾーン大駐車場に駐車してください（11頁参照）。駐車にあたり、料金（1日あたり300円）が必要です。

7. その他

- ・ 発表要旨集録は、紙媒体では配布せず、大会 Web サイトからダウンロードしていただきます。発表要旨集録の公開は5月31日（金）を予定しています。なお、発表要旨集録の閲覧にはパスワードが必要となります。参加登録をされた方に後日閲覧用パスワードをお送りいたします。
- ・ 発表資料は、6月6日（木）から大会終了後3日間まで、大会 Web サイトに設置するオンライン上のフォルダ（One Drive）より会員のみ閲覧できるようにいたしますので、必要に応じ各自ダウンロード、印刷をお願いします。なお、大会当日資料を配布する発表もあります。発表資料は教室後方の机の上に置くようにいたしますので、各自お受け取りをお願いします。

◆第64回大会 Web サイト：<https://sites.google.com/view/jasea2024/>

託児補助の手続きについて

1. 託児補助制度の概要

今大会より会員に対する託児補助の制度が設けられました。制度の概要は下記の通りです。

- ・制度概要：研究大会参加期間中に託児サービスを利用した会員に対する費用の一部補助
- ・補助の対象：日本教育経営学会会員を保護者とする 0 歳（3 か月以上）から小学生までの子に対する費用の一部補助
- ・補助内容：補助金額は大会出席 1 日あたり 5,000 円（子ども 1 人あたり）を上限とし、補助日数は会期中の 3 日間までとする。
- ・申し込み：申請者は、「託児補助金申請書」（様式）をダウンロードし、必要事項を記入して、大会事務局宛てにメールで送る。申込期間は大会参加申込の期間に準ずる。証明書類として、利用施設、利用サービス、利用日、利用料金、利用した子の人数が明記されている領収書の写し等を添付する。証明書類の提出は大会終了後 1 週間以内とする。
- ・大会参加の確認：申請者は託児サービスの利用日ごとに大会参加受付を行うこととし、大会参加受付の記録をもって、本人の大会参加を確認したものとし、補助金額の支払いをする。
- ・留意点：託児サービスへの依頼、契約は各会員が行う。託児所利用のほか、自宅等でのシッター利用も補助の対象とする。

2. 託児補助の申請方法

（1）申請書の提出

申請者は大会 Web サイトより「託児補助金申請書」（様式）をダウンロードし、必要事項を記入の上、6 月 3 日（月）までに大会準備委員会事務局（jasea2024@ gmail.com）にメールにて送付してください。

◆第 64 回大会 Web サイト：<https://sites.google.com/view/jasea2024/>

（2）大会受付

申請者は託児サービスの利用日ごとに大会受付を行う必要があります。大会参加の際、受付にお立ち寄りいただき、本人確認書類（運転免許証、職員証、学生証など）の提示をお願いします。受付の記録がない場合の補助金の支払いはできかねますのでご注意ください。

（3）証明書類の提出

申請者は託児サービス利用の証明書類として利用施設、利用サービス、利用日、利用料金、利用した子の人数が明記されている領収書の写し等を、6 月 16 日（日）までに大会準備委員会事務局にメールにて送付してください。

申請書の内容、証明書類及び大会受付記録の確認後、所定の金額をお支払いします。お支払い後に大会準備委員会事務局よりメールをお送りしますので入金の確認をお願いします。

自由研究発表要領

1. 発表時間

自由研究発表の時間は、以下の通りです。

- (1) 発表者が1名の場合：発表時間 20 分＋質疑 5 分（計 25 分）
- (2) 発表者が複数の場合：発表時間 40 分＋質疑 10 分（計 50 分）
- (3) 共同討議の時間は 25 分です。

※ 共同研究の場合にはプログラムのお名前に○印を付した方が口頭発表者になります。

2. 発表機材

プロジェクターをご利用の場合は、コンピュータをご持参ください。各会場には、プロジェクター、スクリーン、HDMI を装備したケーブルを用意します。必要に応じて HDMI に接続可能な変換アダプタなどをご持参ください。自由研究発表の開始までに、発表者の責任において接続の確認をしてください（開始 20 分前頃より接続のテストができるようにします。）。

3. 発表資料

発表資料は、PDF ファイルにした上で、大会 Web サイトに設置するオンライン上のフォルダにアップロードしていただきます。原則として 6 月 5 日（水）17 時 を締切とします。発表資料は 6 月 6 日から大会終了後 3 日間のみ会員に公開します。

当日、発表資料を配布予定の方は、事前に印刷の上、発表会場にご持参願います。参加者数に対して資料の不足が生じないようにご留意ください。必要部数（50～70 部を目安）をご持参の上、会場の係員にお渡しください。会場後方の机に置く形で配布いたします。

※資料の印刷や増刷のご要望には、大会準備委員会としてお応えできません。

※発表資料等を大会校に事前送付することはおやめください。紛失等の事故が生じることがあるため、資料の事前送付には対応しておりません。

4. 発表の取り止めについて

お申し込んだ発表を取り止める場合は、必ず事前に大会準備委員会の下記連絡先までご連絡ください。発表者が欠席の場合は、発表時間の繰り上げはせず、質疑・休憩の時間に割り当てます。

大会前（6 月 6 日まで）の連絡先：jasea2024@gmail.com

大会期間中（6 月 7 日～9 日）の連絡先：090-3668-7675（雪丸）、050-1739-2085（金子）

5. その他

自由研究発表者は、自由研究発表開始 10 分前（9 時 20 分まで）に司会者に発表会場に到着した旨を対面でお伝えください。

交通案内(大会第1日：九州大学西新プラザ)

九州大学西新プラザへの主なアクセス方法(地下鉄)

「福岡空港」から「姪浜」行き乗車 約20分

「博多」から「姪浜」行き乗車 約15分

「天神」から「姪浜」行き乗車 約7分

→いずれも西新駅下車、7番出口より徒歩約10分



地図の出典：地理院地図（国土地理院）

※西新プラザの駐車場は5台駐車可能ですが、できる限り公共交通をご利用いただきますようお願いいたします。駐車場から本館へ向かう場合は、正面玄関(樋井川沿い)から入館してください。

交通案内(大会第2・3日:九州大学伊都キャンパス)

九州大学伊都キャンパスへの主なアクセス方法

(1) 地下鉄・昭和バス利用

①福岡空港・博多駅～JR 筑肥線 九大学研都市駅まで(地下鉄)

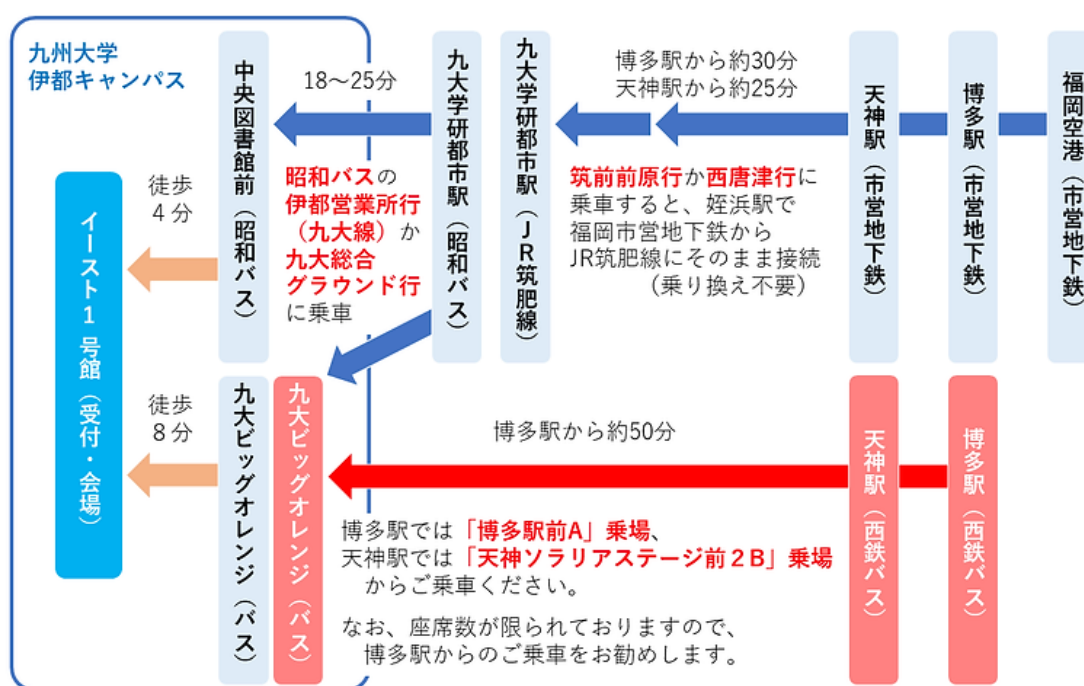
九大伊都キャンパスの最寄り駅は、「九大学研都市駅」です。福岡市地下鉄空港線の駅(「福岡空港」「博多」「天神」など)より姪浜(めいのはま)方面の電車をご利用ください。乗り換え不要な「筑前前原」または「西唐津」行き電車をお勧めします。

②九大学研都市駅～九大伊都キャンパス(昭和バス)

九大学研都市駅からは、昭和バスをご利用ください。バスの乗車場所は、九大学研都市駅のロータリー側に出てください。1番乗場か2番乗場から昭和バスの「伊都営業所」行(九州大学線)か「九大総合グラウンド」行(九州大学線)にご乗車ください。バスは中乗り・前降りの運賃後払い方式です。全国相互利用交通系 IC カード(Suica・PASMO 等)が利用可能です。土日は「横浜西経由」と「周船寺経由」のどちらも、「九大中央図書館」または「九大ビッグオレンジ」のいずれかに停車します。会場に最寄りの降車バス停留所は「九大中央図書館」または「九大ビッグオレンジ」です。

※日本教育経営学会第64回大会 HP では、バス停の写真を用いて説明しております。

[\(リンク\)](#)



(2) 西鉄バス利用(博多駅・天神駅～九大伊都キャンパス)

福岡市営地下鉄「博多」駅および「天神」駅周辺から九州大学伊都キャンパスまで直接バスでお越しいただく際には、西鉄バス(急行K)をご利用ください。座席は予約不要(予約不可)です。全国相互利用交通系 IC カード(Suica・PASMO 等)が利用可能です。

博多駅・天神駅→九州大学のバス、九州大学→天神駅・博多駅へのバス時刻表は、西鉄バスまたは大会ホームページよりご確認ください。土日は、概ね1時間に1本の間隔での運行です。なお、立ち乗りでの乗車も可能ですが、定員超過の場合は次便または地下鉄利用での移動となる場合があるため博多駅前からの利用をお勧めします。博多駅・天神駅とも、発着は「バスターミナル」ビルではありません。博多駅前では博多口正面の「博多駅前 A」乗場、天神駅前では「ソラリアステージ」東側の「天神ソラリアステージ前 2 B」乗場となります。詳しくは大会ホームページをご参照ください。

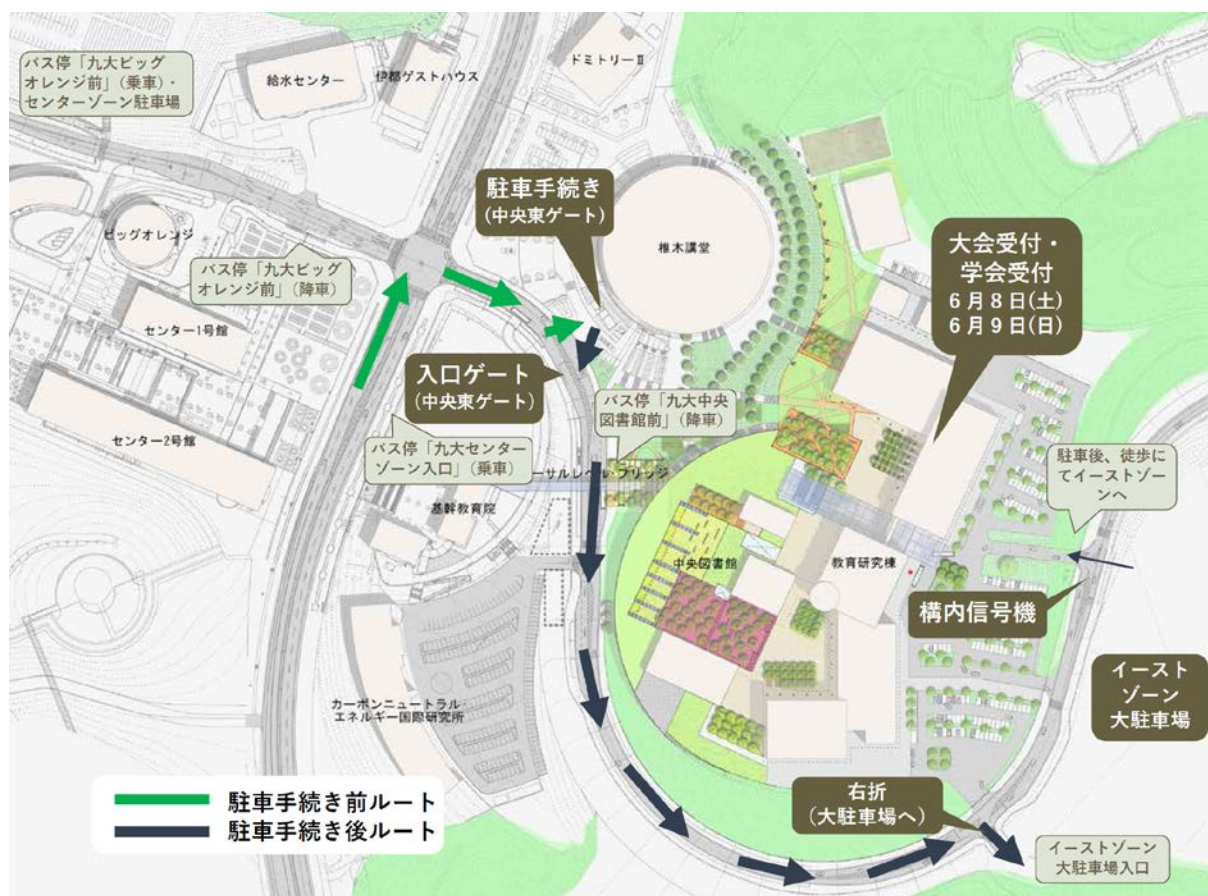
降車後は大会受付まで、案内表示とスタッフが誘導いたします。

※大会当日は大規模コンサート等のため直行バスの走る都市高速道が渋滞する可能性がありますのでご注意ください。

(3) 自家用車・タクシーでお越しの場合

イーストゾーン大駐車場に駐車してください。駐車にあたり、駐車料金（1日あたり300円）が必要です。駐車場から会場までの案内表示はありません。駐車を希望される場合は、椎木講堂横の守衛所前にて駐車の上、手続きをしてからゲートを通る必要があります。

タクシーの場合は、駐車手続き不要で入構することが可能です。



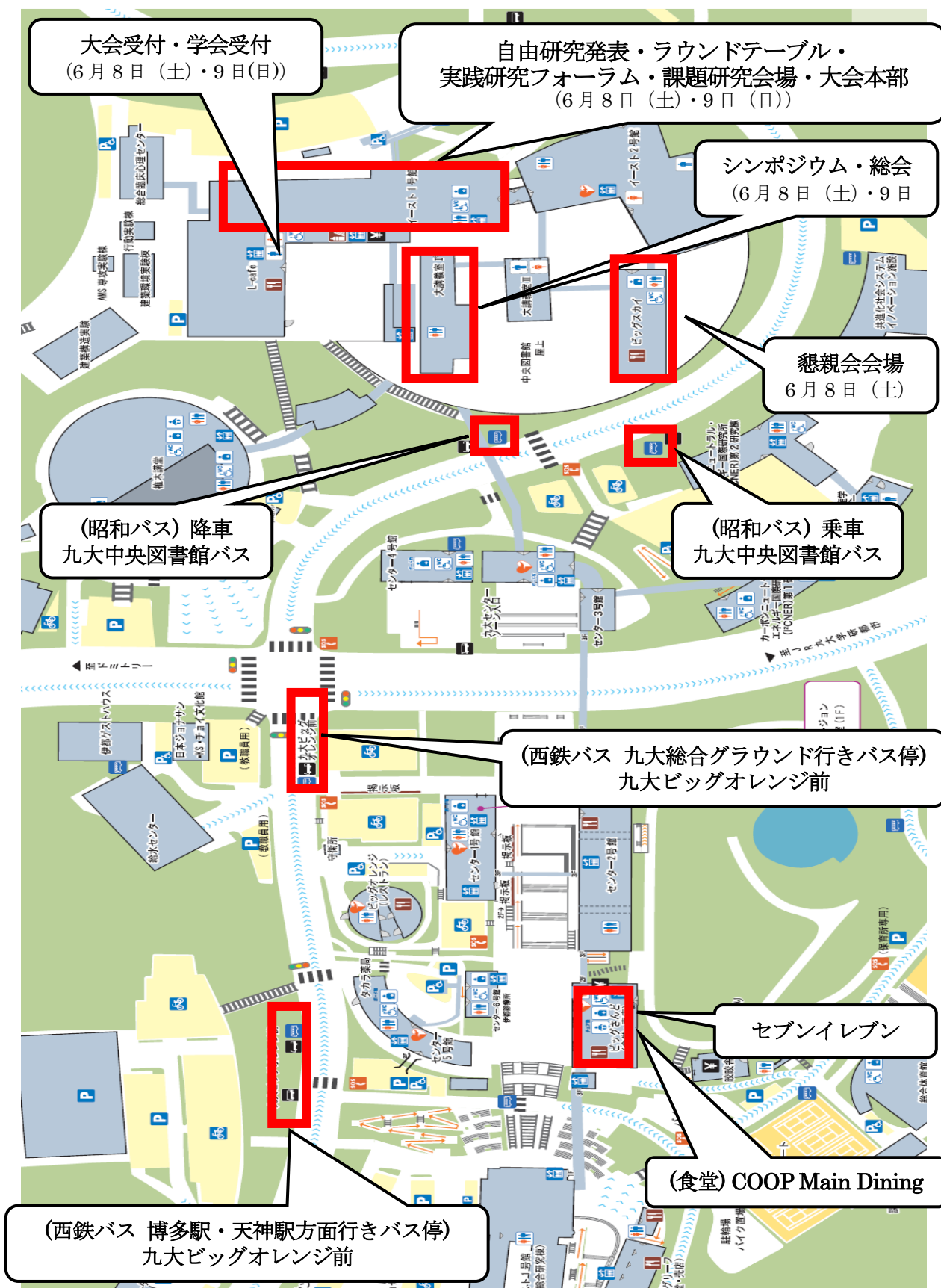
○交通アクセスやキャンパスマップの詳細につきましては、下記サイトもあわせてご参照下さい。

大会ホームページ <https://sites.google.com/view/jasea2024/> (「交通アクセス・宿泊情報」内)

自動車入構詳細 <https://motokane-lab.com/~motokane/index.php?id=23> (元兼研究室 HP)

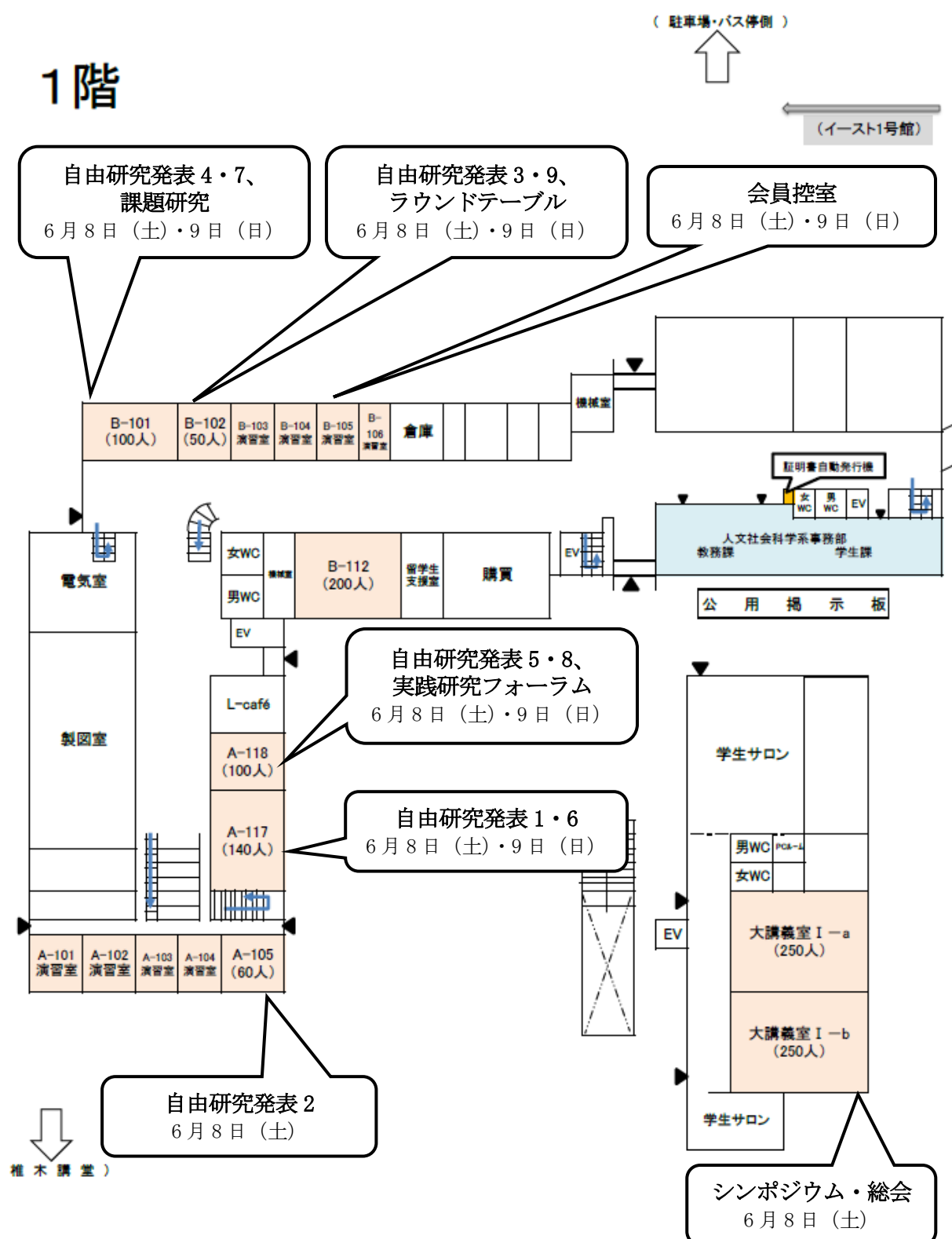
キャンパスマップ <https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/campus/ito/>

キャンパスマップ(伊都キャンパスの大会関連エリア抜粋)



※センターゾーンの「セブンイレブン九州大学店」「COOP Main Dining」は土日営業する見込みですが、会場より片道徒歩 10~15 分程度かかりますのでご注意ください。

会場フロアマップ（伊都キャンパス）



若手研究者のための研究フォーラム 若手研究者が考える教育経営学研究の現在地と展望

【趣旨説明】

若手研究者のための研究フォーラム（前身「若手研究者のためのラウンドテーブル」）は、これまで若手研究者を取り巻く研究環境や、若手から見た教育経営学における新たな研究課題および方法、教育経営学の知的蓄積の継承と刷新をテーマに議論を重ねてきた。

そもそも、時代や社会の影響により、若手研究者は、先行世代とは異なる研究上の問題意識や着眼点を有することも少なくない。そしてそのことが、教育経営学研究における現在地と展望の捉え方にも影響すると思われる。また、これまでも、先行世代の参加者からは「若手が最初から教育経営学研究のあり方を無理に考え、若手が教育経営学を背負いすぎている」との指摘を得た。以上より、若手自らの研究の着眼点を共有・議論するなかで、そこから教育経営学研究のあり方を模索する必要があると考えた。そこで、今期の若手研究者のための研究フォーラムでは、若手研究者自身の研究における問題意識や着眼点を手掛かりとして、そこから教育経営学研究の現在地と展望について探究を進めることとしたい。そのため、議論の柱は次の2点とする。第一は、自身の研究をどう位置づけ、いかなる着眼点・研究方法から、どのような問題に光を当てて研究を進めているのかについてである。若手研究者固有の着眼点や問題意識、葛藤などについて、議論する契機としたい。第二は、なぜ日本教育経営学会に入会したのか、教育経営学に対してどのような思いや期待を有するのかについてである。自身の研究における問題意識や着眼点等を踏まえて、教育経営学の展望について意見交流を行いたい。

話題提供者について、1年目はこれまで焦点が当たりにくかったが時代的・社会的に重要になっている問題に光を当てようとしている会員、2年目は多層的に独自のアプローチで研究に取り組んでいる会員にお願いした。3年目にあたる今回は、多くの日本教育経営学会の若手研究者が教師や教師教育に関心を持っており、さらなる議論や注目の必要と考え、教師や教師教育を研究テーマとする下記3名の会員にお願いをした。話題提供者による報告内容（教育経営学の若手研究者は教師や教師教育にどう向き合ってきたのか等）を基に、上記2つの議論の柱をトークテーマとしながら参加者全体で議論を行いたい。

【話題提供者】

- 1.高野貴大（茨城大学）：教師の「深い」省察を支え促す改革方途の究明
- 2.鄭修娟（九州産業大学）：教育経営学は教師の「権利向上」に貢献しうるか
—韓国における教員労働組合と専門職教員団体の拮抗と連携—
- 3.町支大祐（帝京大学）：組織社会化・経験学習・組織開発
—学習という視点から教職員と学校組織との関係にアプローチする—

【司会】西野倫世（大阪産業大学）、原北祥悟（崇城大学）

※今期（第五期）はワーキンググループを設置し、下記メンバーにより企画・運営を進めている。

山本遼（大分大学）、西野倫世（大阪産業大学）、榎景子（長崎大学）、田中真秀（大阪教育大学）、原北祥悟（崇城大学）、古田雄一（筑波大学）、末松裕基（東京学芸大学・若手ネットワーク担当：全体調整・理事会報告を担当）

6月8日(土) 9:30~12:05

会場: E-A-117 教室

自由研究発表1

【司会】 天笠 茂 (千葉大学名誉教授)
照屋 翔大 (沖縄国際大学)

9:30~9:35	司会挨拶
9:35~10:00	学校管理職研修の効果検証デザイン ー制御フォーカス・ウェルビーイング・職能成長への着目ー 露口 健司 (愛媛大学)
10:00~10:25	校長の信頼性の構造に関する一考察 ー小学校教員への質問紙調査を通してー ○西川 潔 (関西福祉科学大学) 久我 直人 (鳴門教育大学)
10:25~10:50	韓国における校長のリーダーシップに関する研究 張 信愛 (共愛学園前橋国際大学)
10:50~11:40	校長のリーダーシップを支える社会ネットワークに関する調査研究(2) ー学校の課題状況と校長の社会ネットワークとの関連を中心としてー ○浜田 博文 (筑波大学) ○諏訪 英広 (川崎医療福祉大学) ○朝倉 雅史 (筑波大学) ○川上 泰彦 (兵庫教育大学) ○高谷 哲也 (鹿児島大学) ○高野 貴大 (茨城大学) 安藤 知子 (上越教育大学) 織田 泰幸 (三重大学) 加藤 崇英 (茨城大学) 木下 豪 (独立行政法人教職員支援機構) 吉田 尚史 (山形大学)
11:40~12:05	共同討議

6月8日(土) 9:30~12:05

会場: E-A-105 教室

自由研究発表2

【司会】 南部 初世(名古屋大学)
篠原 岳司(北海道大学)

9:30~9:35	司会挨拶
9:35~10:00	学校組織の再構築と校長のリーダーシップについて ～小学校における「楽しい学校」の実現をめざす実践的研究～ 香村 紀子(大阪府四條畷市立忍ヶ丘小学校)
10:00~10:25	米国の教員定着と多文化受容における校長のサーバント・リーダーシ ップ的役割 八尾坂 修(九州大学名誉教授 玉川大学)
10:25~10:50	組織・人を動かす学校経営の検討 ー「キャズム理論」の応用の可能性ー 山口 陽子(京都大学大学院生)
10:50~11:40	非認知能力育成を目指す公立小学校のサクセスフル・リーダーシップ に関する事例研究 ーISSPPの研究方法に基づく児童・PTA・CS運営委員・教員・校長 のインタビュー調査等からー ○柏木 智子(立命館大学) ○西野 倫世(大阪産業大学) ○小野 まどか(植草学園大学) ○吉川 麻紘(筑波大学大学院生) 矢田 匠(フィンランド国立教育研究所)
11:40~12:05	共同討議

6月8日(土) 9:30~12:05

会場: E-B-102 教室

自由研究発表3

【司会】 山下 晃一(神戸大学)
大野 裕己(兵庫教育大学)

9:30~9:35	司会挨拶
9:35~10:00	生徒の学習行動の転換を促す授業の開発的研究 —U理論を援用した自己調整学習の展開とその効果(2年間データより)— 元澤 倫久(兵庫教育大学大学院生)
10:00~10:25	カリキュラム・マネジメント概念の再整理 —高野桂一、中留武昭、倉本哲男、田村知子の分析を中心に— 千々布 敏弥(国立教育政策研究所)
10:25~11:15	「写生」を原理とした学校づくりの実践的展開 ○曾余田 浩史(広島大学) ○曾余田 順子
11:15~11:40	未来を紡ぐ学校づくり —学校建築をどう活用するか— 吉岡 学(長岡京市立長岡第四小学校)
11:40~12:05	共同討議

6月8日(土) 9:30~11:40

会場：E-B-101 教室

自由研究発表4

【司会】 貞広 斎子 (千葉大学)
福本 みちよ (東京学芸大学)

9:30~9:35	司会挨拶
9:35~10:00	こども若者の参画と学校マネジメント —自治体校則見直し状況調査をてがかりに 末富 芳 (日本大学)
10:00~10:25	外国につながるのある児童生徒支援に関する行政課題 福島 貴子 (静岡大学)
10:25~10:50	民間フリースクールにおける包摂性の確保方略とその課題 —持続可能な運営システムとの両立に向けて 武井 哲郎 (立命館大学)
10:50~11:15	こどものウェルビーイングと教師協働効果の可視化 本図 愛実 (宮城教育大学)
11:15~11:40	共同討議

6月8日(土) 9:30~12:05

会場：E-A-118 教室

自由研究発表5

【司会】 青木 栄一（東北大学）
波多江 俊介（熊本大学）

9:30~9:35	司会挨拶
9:35~10:00	教員の見取りの有用性と限界に関する考察 ープロ野球ドラフト1位選手の活躍状況データを元にー 森脇 正博（神戸市立伊川谷小学校）
10:00~10:25	校長による職場のワークライフバランス支援が教員のウェルビーイングに与える影響 神林 寿幸（明星大学）
10:25~10:50	小学校における働き方改革の推進に対する教頭の態度構造について ○真田 穰人（兵庫教育大学） 米田 敏彦（梅光学院大学）
10:50~11:15	『教職員人事行政状況調査』における「精神疾患による病気休職者及び1ヶ月以上の病気休暇取得者」に関するデータ分析 高木 亮（美作大学）
11:15~11:40	ポライトネスの観点を用いた小中学校教員の感情労働に関する考察 能間 寛子（文京学院大学）
11:40~12:05	共同討議

公開シンポジウム

教師を取り巻く労働環境を考える

本学会において教師を取り巻く労働環境等に照射した企画は、シンポジウムでは2010年の「教職員の健康・学校組織の健康」や2018年の「学校における働き方改革と教育経営学の課題」、紀要特集では2007年の「教育経営をめぐる環境変動」、2016年の「学校組織のリアリティと人材育成の課題」や2020年の「教師という仕事と教育経営」等があげられる。このように教育経営学では継続的に着目されてきたテーマであり、今現在においても「学校における働き方改革」が旬なキーワードとして各種多様な媒体で論じられ、教員の勤務管理の問題や業務改善の議論に閉じることなく、広く学問的見地から論及され続けているテーマのひとつである。

近時においては、教員の働き方をめぐって中央教育審議会の特別部会が「危機的な状況にあり社会全体で取り組むべきだ」として緊急提言をまとめるなど(2023年8月28日)大きな議論を巻き起こした。同部会は現在まで国民的な関心を集めながら会議を重ねており、教員の処遇改善を焦点にした提言のとりまとめを予定している(2024年4月現在)。本学会の会員が複数名参加している同部会は、年間の授業時数が国の標準を大幅に上回っている学校は早急に見直すこと、「登下校対応」「校内清掃」「休み時間の対応」等の業務については教員の負担軽減を進めることなどを切実に訴えた。さらに、法改正が必要な対策を待たずにできることは直ちに行うべきとの姿勢を示し、3分類14業務の見直しを強調した。ただ、かかる観点はずでに文部科学省は2006年の「教員勤務実態調査」や翌年の「学校現場の負担軽減プロジェクトチーム」による数々の提言にみられるとともに、2015年には「学校現場における業務改善のためのガイドライン～子供と向き合う時間の確保を目指して～」(同年7月27日)の中にも示されており、都度、数多くの提案がみられるものの今日に至るまで実現したとは言い難い状態が続いている。

上記特別部会のみならず、これまでの中央教育審議会における協議に日本教育経営学会の会員が参加することが多く、政策立案過程において数々の研究知見を提供してきた。そこで今回は本シンポジウムのテーマである「教員の労働環境」を考える際に同部会委員として参加している会員から研究知の貢献可能性を論じていただくこと、ジャーナリズムという第三者からの視点の提供、教育社会学研究の立場から論じていただくこととしたい。かかる議論は本学会の会員にとって有意義な示唆が得られるのではないかと思料される。

そこでシンポジウムの論点として以下の点を設定した。

- 論点① ジャーナリズムからの見え方—教育界での議論はどう見えるか—
- 論点② 教員の労働環境をめぐる諸相と研究知の整理—データ分析とフィージビリティ—
- 論点③ 教員の労働環境に係る政策・議論をどうとらえるか—教員の労働環境改善方策(緊急提言)に対する提言—

本シンポジウムではかかる議論を経て、教師の労働環境を捉える視座を改めて考え、様々なアイデアの実現が期待できる展望を共有したいと考える。

【プログラム】

はじめに シンポジウムの企画の趣旨

報告① 手足を縛られた教員たち

四宮 淳平（西日本新聞社）

報告② 教員のウェルビーイングを高める働き方改革

露口 健司（愛媛大学）

報告③ 過重労働の背景を探る

油布 佐和子（早稲田大学名誉教授）

指定討論

木岡 一明（本学会会長）

[司会] 畑中 大路（長崎大学）

高妻 紳二郎（福岡大学）

【報告者紹介】

四宮 淳平（西日本新聞社）

1980 年、徳島県生まれ。2005 年に西日本新聞社に入社し、福岡県政、長崎県諫早市などを担当し、2020 年 8 月から社会部編集委員（教育担当）。不登校、インクルーシブ教育、教員の専門性などのシリーズを記事化。2020 年度から 2 年間、事業構想大学院大学に通い、不登校支援の具体的な手法研究。認定 NPO 法人や一般財団法人と協力し、不登校支援のクラファンも実施した。趣味はクライミング。

露口 健司（愛媛大学）

1970 年、徳島県生まれ。2007 年九州大学大学院人間環境学府博士後期課程修了。2008 年愛媛大学教育学部准教授、2016 年から愛媛大学大学院教育学研究科教授。教育分野でのリーダーシップ、信頼、ソーシャル・キャピタル、ウェルビーイング等の計量分析を展開。近著として『教員のウェルビーイングを高める学校の「働きやすさ・働きがい」改革』（教育開発研究所）を刊行。ベネッセの View NEXT 高校版において、「追跡!! 働き方改革」を連載中。趣味はガーデニング。

油布 佐和子（早稲田大学名誉教授）

1953 年大分県生まれ。埼玉県川越市立中学校教諭を経て、東京大学大学院教育学研究科入学、1987 年 9 月、同、博士課程単位取得満期退学（修士）。1987 年 10 月より、福岡教育大学・講師・助教授・教授を経て、2008 年 4 月より早稲田大学教育・総合科学学術院教授。2024 年 3 月定年退職。教員文化、教員の労働環境などについて研究してきた。『「働き方改革」は何を改革するのか』教育学年報 14 公教育を問い直す所収。世織書房 2023 年、「問われる献身性と働き方の再構築』山崎・紅林編『専門職として成長し続ける教師になるために』人言洞 2023 など。

6月8日(土) 16:15～17:15

会場：大講義室 I

総会

※総会を欠席する会員は、委任状提出用の URL (<https://forms.gle/yPj8Q7g5qNs6Zrq56>) にアクセスして事前に「委任状」をご提出ください。

◆委任状提出用フォームには、以下の QR コードからもアクセスいただけます。



6月8日(土) 17:35～19:35

会場：ビッグスカイ

懇親会

お料理とともに、九州各地の焼酎・お酒・ノンアルコール飲料も準備してお待ちしております。ビッグスカイは中央図書館の屋上に位置し、開放感のある会場でございます。会員交流の機会として、是非皆さまお誘いあわせの上ご参加いただければ幸いです。



6月9日(日) 9:30~12:05

会場: E-A-117 教室

自由研究発表6

【司会】 竺沙 知章(京都教育大学)
末松 裕基(東京学芸大学)

9:30~9:35	司会挨拶
9:35~10:00	児童と教師がともに安心できる学校組織づくりの実践研究 ーチーム学校に向けた校長の2年間の試行錯誤のプロセスー 山口 博功(大阪市立平林小学校長)
10:00~10:25	兵庫県尼崎市におけるスクールソーシャルワーク推進事業の展開 濱口 輝士(名古屋文理大学)
10:25~10:50	学校及び学校設置者において外部人材を「内部化」する意義と効果について 神内 聡(兵庫教育大学)
10:50~11:40	教育経営システムの構造変容に関する総合的研究(2) ー学校の包括的機能を再考するー 植田 健男(花園大学) 大野 裕己(兵庫教育大学) 加藤 崇英(茨城大学) 首藤 隆介(名古屋造形大学) 高橋 寛人(石巻専修大学) ○棚野 勝文(岐阜大学) ○南部 初世(名古屋大学) 濱口 輝士(名古屋文理大学) ○平井 貴美代(常葉大学) ○前原 健二(東京学芸大学)
11:40~12:05	共同討議

6月9日(日) 9:30~11:40

会場：E-B-101 教室

自由研究発表7

【司会】 高瀬 淳 (岡山大学)
安藤 知子 (上越教育大学)

9:30~9:35	司会挨拶
9:35~10:00	北星学園大学における教員養成の現状と課題 —学生の意欲喚起のための取組とその検証— 鳴海 昌江 (北星学園大学)
10:00~10:25	学びの多様化学校の実践知 —越境学習の視点から— 本山 敬祐 (岩手大学)
10:25~10:50	教育経営実践の記述から得られる知見の特徴とその方法上の課題 —校内研修における教師の集団での学習成立支援の事例からの検討— 高谷 哲也 (鹿児島大学)
10:50~11:15	スクールリーダー教育におけるクラフト志向の潮流に関する一考察 山本 遼 (大分大学)
11:15~11:40	共同討議

6月9日(日) 9:30~12:05

会場：E-A-118 教室

自由研究発表8

【司会】 佐藤 晴雄（帝京大学）
仲田 康一（法政大学）

9:30~9:35	司会挨拶
9:35~10:25	「教育供給主体の多元化」と地域教育経営の自律的論理 ー北海道安平町における「学社融合」実践を事例としてー ○加藤 裕明（札幌大谷大学） ○小山田 健（北海道文教大学）
10:25~10:50	高知市型コミュニティ・スクールの実現に向けての実践と課題 ○野村ゆかり（一般社団法人もうひとつの大きな家族） 押田 貴久（兵庫教育大学）
10:50~11:40	コミュニティ・スクールの持続可能性に関する調査研究 ー全国教育委員会を対象とする質問紙調査よりー ○諏訪 英広（川崎医療福祉大学） ○川口 有美子（公立鳥取環境大学） ○佐久間 邦友（日本大学）
11:40~12:05	共同討議

6月9日(日) 9:30~11:40

会場：E-B-102 教室

自由研究発表9

【司会】 湯藤 定宗（玉川大学）
小早川 倫美（島根大学）

9:30~9:35	司会挨拶
9:35~10:00	中国における「薄弱学校」の自己改善要因に関する研究 ー教員の意識変容に着目してー 毛 月（筑波大学大学院院生）
10:00~10:25	学校現場における教員の職能開発の仕組み ーイギリス（イングランド）のNPQを中心にー 植田 みどり（国立教育政策研究所）
10:25~10:50	ウィネットカ・プラン創設期にみる同僚性の発達を促す学校経営 宮野 尚（信州大学）
10:50~11:15	韓国の革新学校における意思決定過程の構造と実態 ーソウル型革新学校の比較分析を通してー 吉川 麻紘（筑波大学大学院生）
11:15~11:40	共同討議

ラウンドテーブル

教育経営学における「研究倫理」を考える(2) —ここから見えてくる教育経営学の現状とこれから—

【企画趣旨】

日本教育経営学会の特徴として、学校をめぐる人・人間関係を扱う、理論と実践の関係性を重視する、多様な出自の会員が存在すること等が挙げられる。これらの特徴は、本学会の魅力であるとともに、研究の複雑さ・価値葛藤・困難さを生む要因でもある。

さらに近年の本学会の動向として、自然科学重視や研究の国際化などの国の学術政策を背景に「学術的な厳密性」が求められる一方で、教職大学院の拡充や教師教育改革などを背景に、教育現場の実践の質の改善に資する「実践的な有意義性・適切性」が求められている。そして、研究経験が少ない会員、研究機関に所属していない会員が増加している。本学会としては、多様な人や研究が参加可能かつ豊かになるよう、学会活動の基盤としての「研究倫理」が重要である。

昨年度(第63回大会)のラウンドテーブルでは、教職大学院等においては「発見的・探索的な研究」等が重要であり、医学系の発想とは違った研究倫理の考え方が求められること、インターネットで論文を容易に検索できる状況で「匿名とは何か?」という新たな問題が生じていること、いじめ問題、不登校、教員評価など、本学会にとって重要な問題領域であるにもかかわらず、研究倫理とかかわって、そうした領域へのアプローチや議論が本学会では避けられているのではないかと、等々の状況が浮かび上がってきた。

今回のラウンドテーブルでは、引き続き、教育経営学(会)をめぐる研究倫理環境の状況把握を進めるとともに、本学会の将来構想に向けての課題を明らかにしていきたい。

将来構想検討プロジェクト担当

木岡 一明	(日本教育経営学会会長)
曾余田 浩史	(広島大学)
南部 初世	(名古屋大学)
末松 裕基	(東京学芸大学)

課題研究

教育経営学研究の新機軸の探究（3）

【課題設定の趣旨】

昨年度の課題研究では、これまでの教育経営学研究が見過ごしてきた現象、現実に向き合うことを目指して、4人の小・中学校の教師にインタビュー調査を行い、現象学的方法を参照しながら、データの解釈に取り組んだ。新しい知見を報告するところまではいかなかったが、各報告者は、これまで着目してこなかった教師の認識、思いに触れ、それらに向き合う中で、教師によって語られたことをどのように捉えるべきか、かなり思い悩むことになった。それは、自らのこれまでの認識を問い直し、そこから離れるような感覚が求められるものであった。

今年度は、昨年に引き続き、インタビューデータの分析を行う。昨年度は、4人の教師それぞれについて、インタビュー担当者が個別に分析し、その結果を報告するものであったが、今年度は、4人のインタビューデータの分析を横並びにして眺めたうえで、そこから見えてくるもの、考えられることを言語化し、新たな知見を得ることを目指している。

次に、インタビューデータの分析によって得られる知見について理論的検討を行う。これまでの教育経営学研究は、外側から学校を捉え、その構造や機能を分析してきたと言えるが、内部の視点、すなわち教師個人の認識を視座として学校を捉えることにより、これまでの教育経営学研究の認識枠組みには収まらない問題が浮かび上がってくるのではないかと考えている。教師個人の認識は多様であるはずであり、それらを分析することにより、新たな学校の姿を描くことができるのではないかと考えている。またそのような学校の姿を踏まえると、これまで依拠してきた経営学とは異なる概念、認識枠組みが必要となるかもしれない。

以上の問題意識に基づき、本課題研究は、教育経営学研究のあり方を問い直すことを目的とする。そのため、研究推進委員会から問題提起を行うとともに、フロアの会員と活発な意見交換を行い、今後に向けた議論を深めていきたい。

【報告】

インタビューデータの分析（仮）

照屋翔大（沖縄国際大学）

教育経営学研究の新機軸の探究（仮）

笠沙知章（京都教育大学）

【司会】

武井敦史（静岡大学）

実践研究フォーラム

「実践の価値が表現される記述」の生成と共有の重要性について考える

今期実践推進委員会では、教育経営学にとって意味のある事例の記述（Good Report of Practice）とはどのようなものかを探求すべく、教育経営実践事例の発掘だけでなく、その「論文化」をテーマとして検討してきた。これまでの議論では、以下のようないくつかの論点について目を向けることの重要性が確認されてきていると考える。

第一に、学術研究を目的とする事例の記述と、実践の記録や蓄積を目的とする事例の記述があり得ること。両者の記述の間には、さらに実践研究論文や教育経営の担い手教育を目的とするケース事例の記述など、多様な実践の記述のタイプがあり得る。第二に、そのような多様な位相の事例の記述は、優劣をつけられるものではなく、本学会においてはそれらのいずれもが評価され、「論文化」されて行くべきものであること。第三に、それぞれの目的の下に記述された実践事例は、目的に照らしてその持つ価値や評価の観点が異なってくる。したがって、一律に科学的妥当性や一般化可能性のみに価値があるわけではなく、記述される事例の一回性や個別文脈性、主観性も十分に評価されるべき価値を有していること。第四に、本学会は、教育経営学研究者を育成するだけでなく、教育経営実践者を育成するという実践への貢献も役割として担っており、この意味で実践者が教育経営の実践を記述し、批判、吟味し、交流するコミュニティとして機能することも期待されていること。そのため、厳密な「論文作法」に則って学術論文として完成された実践事例の記述のみではなく、まだ思考錯誤段階であったり、粗削りな挑戦的試みであったり、従来の一般的認識の再検討を促すような事例の報告論文などについても、一定の基準に照らしつつ、現在以上に光を当て、公表の場を提供していくことが求められている。

しかし、ここまでを共有したうえで次に課題となるのは、どのような事例の記述であれば取り上げ、交流の場に提示する価値があるのか、という点に共通の物差しがないことである。学術研究の対象となる事例も教育経営実践のモデルとなる事例も、新たな実践知を創出する事例も、基本的には日々の連続する出来事、ある一部が意図や思惑をもって切り取られる（トリミングされる）ことによって立ち現れるものである。そうであるならば、そこに価値を見出して事例を切り取るのは実践当事者でなくとも構わないのではないか。このような「日々の現象のトリミング」に対して本学会ではどのように自覚的であったらうか。

そこで本フォーラムでは、「事例を記述する」という営みに焦点づけて議論したい。実際に日々の教育経営的営みを「第三者が何らかの価値を見出して切り取る」、あるいは「当事者自身がある思惑をもって切り取る」とはどのようなことなのかを考え、さらには、そこでのトリミングにはどのような条件が不可欠となってくるのかについて、研究倫理との関連で考えてみたい。

司 会：安藤知子（上越教育大学）・吉田尚史（山形大学）

教育経営実践をとらえる教育経営研究の拡張
実務経験者から見た実践の事例報告と実践研究
実践事例をめぐる研究倫理と良い記述の保障

辻野けんま（大阪公立大学）
一之瀬敦幾（元・常葉大学）
柏木 智子（立命館大学）

日本教育経営学会第 64 回大会プログラム

発行日：2024 年 4 月 24 日

編集：日本教育経営学会第 64 回大会準備委員会

〒819-0395 福岡市西区元岡 744 九州大学 清水良彦研究室気付

日本教育経営学会第 64 回大会準備委員会

委員長：元兼正浩(九州大学)

副委員長：高妻紳二郎(福岡大学)

準備委員：大竹晋吾(福岡教育大学)、日高和美(福岡教育大学)、

楊川(九州国際大学)、波多江俊介(熊本大学)、畑中大路(長崎大学)、

兼安章子(福岡教育大学)、原北祥悟(崇城大学)、鄭修娟(九州産業大学)、

木村葉太(九州女子大学)、小林昇光(奈良教育大学)、柴田里彩(高知大学)、

殷爽(山口東京理科大学)、小杉進二(山口大学)、山本遼(大分大学)、

山内絵美理(東海大学)

事務局長：雪丸武彦(西南学院大学)

事務局次長：清水良彦(九州大学)、金子研太(九州工業大学)

事務局員：小椎葉大樹、福井美空、張文欣、前田まゆみ、餅井京子、杉山大悟、

園久恵、米倉佳美、酒井拓平、近藤圭太、三浦佑斗